

メガバンクグループ連結地域銀行に関する格付方法の変更を検討

株式会社日本格付研究所（JCR）では、以下のとおり格付方法の変更を検討していますので、その概要と背景および当該変更に伴い見直される可能性のある格付の範囲と見直しに要する期間をお知らせします。

1. 検討中の変更の概要と背景

JCR では、2012年3月26日付の業種別格付方法「銀行等」（「現行手法」）の一部変更を検討している。この一部変更の主要な内容は、メガバンクグループの傘下にある地域銀行（「傘下地銀」）、とりわけ連結子会社である地域銀行（「連結地銀」）の格付方法にかかるものである。メガバンクグループの傘下地銀について、現行手法では親銀行の支援を格付に強く織り込むことは難しいとしてきたが、新たな格付方法では、一定の要件を満たす場合は、親銀行からの追加的な支援の可能性を加味して格付を行うよう取扱いを変更することを検討している。

現行手法のもとで、JCR はメガバンクグループの傘下地銀の格付を、傘下地銀単独の信用力（これには取扱商品・サービスの提供、ノウハウの提供、顧客紹介、営業チャネルの提供など、平素より親銀行から受けている便益の効果が含まれる。）に基づき付与し、将来における資本支援など追加的な支援の可能性については強くは反映させてこなかった。これは、親銀行からみた傘下地銀の戦略的な重要性が不明確であり、また、歴史的にみても、傘下地銀のメガバンクグループの傘下入りは戦略的な判断の結果というより、不良債権処理などの際の資本支援の結果実現したという側面が強いケースが多いと JCR が考えてきたことを反映している。

しかし、JCR ではメガバンクと傘下地銀の関係につき、次の点に着目する必要性が出てきたと考えている。まず、戦略的重要性の如何にかかわらず、連結地銀を中心に、傘下地銀と親銀行の間で、リスク管理関連情報の共有など、内部管理上の結び付きが一層強まってきた。バーゼル 対応やバーゼル 対応など、親銀行からみた連結ベースの内部管理の高度化への要請がこの傾向を強めていると考えられる。また、連結地銀を中心に、傘下地銀がホームページ上などで親銀行グループの名前を掲げてきたことなどで、親銀行ブランドの共有が浸透しつつあるように見受けられる。ブランドの共有は、レピュテーションの維持のために親銀行が支援を行うインセンティブとなる。加えてもっとも重要なことであるが、近年、連結地銀を中心に、親銀行からの追加的な資本支援が観察されてきた。三井住友銀行は 09 年に連結子会社である関西アーバン銀行の、10 年には同じく連結子会社であるみなと銀行の資本増強に応じた。また、13 年 3 月には関西アーバン銀行につきさらなる資本増強に応じることを公表している。この 13 年 3 月公表の資本支援の主眼は、今後適用が予定される新たな自己資本比率規制への対応と見受けられる。09 年と 10 年の資本支援が赤字に伴う資本の毀損を埋め合わせるといったやや消極的な性質のものであったのに対し、13 年 3 月公表の資本支援は、傘下地銀の財務課題の解決に前向きに関与する姿勢を伺わせるものとして特に注目される。

これらの点を踏まえ、JCR は傘下地銀の格付につき新たな格付方法で次のように取り扱うことを検討している。

メガバンクグループの傘下地銀につき検討中の新たな取扱い

メガバンクグループの傘下にある地域銀行について、メガバンクグループの傘下にあることだけを理由に、親銀行またはグループ（「親銀行等」）の信用力を起点に格付を判断することはしない。親銀行等からみた戦略的な重要性が不明確であり、また、歴史的にみても、グループの傘下入りが戦略的な重要性によるものというより、金融危機における不良債権処理などの際の資本支援の結果実現したという側面が強い場合、親銀行等からの支援を格付に強く織り込むことは難しい。もっとも、そのような経緯でグループ入りした地域銀行であっても、その経営管理に親銀行等が相応の責任をもつであろうと判断される場合は、親銀行等からの追加的な支援の可能性を加味して格付を行う。この判断にあたっては、親銀行等との連結関係の有無、平素の経営管理における親銀行等の関与の度合い、業務における親銀行ブランドの利用状況などを参考とするほか、実際の支援の実績も勘案する。

2. 変更に伴い見直される可能性のある格付の範囲と見直しに要する期間

本件検討は、本年 9 月末までに完了させる予定である。前述した格付方法の変更がもし実際に行われた場合に、その結果として見直しが行われる可能性がある格付は、下に掲げる 2 銀行の格付である。当該変更は格付にポジティブに働くが、当該変更による影響は 2 銀行のいずれについても 1 ノッチ程度となる可能性が高いと考えている。本件検討の完了と同時に、その結果を格付に反映させる予定である。

発行体：株式会社みなと銀行

長期発行体格付：A- 見通し：安定的
 発行登録債予備格付：A-
 劣後ローン格付：BBB+

発行体：株式会社関西アーバン銀行

長期発行体格付：BBB+ 見通し：安定的
 短期発行体格付：J-2

（担当）炭谷 健志・宮尾 知浩

留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会が定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官（格付）第 1 号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル